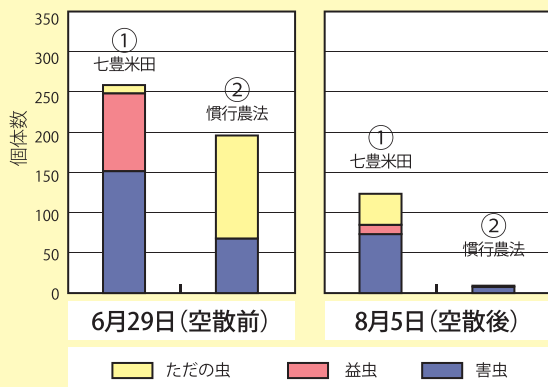


こんなに違う！ 田んぼの生物☆

無農薬の田んぼと、農薬を使用している田んぼの生物の状態を比較調査しています。詳細結果は機関誌「河北潟総合研究」にて報告されます。

無農薬水田①と、殺虫剤の空中散布をした水田②の比較

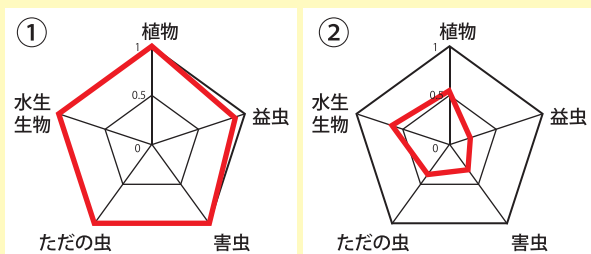


左の図は、捕虫網をつかって同じ方法で採取した虫の数をグラフにしたものです。

①は無農薬農法2年目の七豊米の水田、②は農薬を使用している慣行農法の水田です。殺虫剤の空中散布の直後に調査した8月5日では、②の水田の虫が激減の様子がわかります。そして害虫が生き残っていることがわかりました。

生物多様性の比較 <生物の種数の違い>

調査をおこなった5つの水田のうち2つの結果を掲載しています。



生きもののグループごとに、最も多かった地点を1として、5つの田んぼで確認された種数を相対的に表しています。



① 農薬不使用の七豊米田、採集された虫 (2013年7月)

② 慣行農法の水田、採集された虫 (2013年7月)

ひろめよう！ 河北潟の環境保全米 生きものの元気米

恵まれた日本の低地の自然を守ろう
田んぼからカエルがいなくなる前に

田んぼから生きものが消えている

米どころといわれる北陸の水田地帯でも、カエルの鳴かない田んぼがひろがっています。競争力の強化という圃場の大規模化と効率化には、大型機械の使用や、除草剤、最近ヨーロッパでの使用が中止されたネオニコチノイド系殺虫剤など農薬の使用が前提となります。それは、環境を劣化させ、生物多様性を損なう方向に進むものです。

持続可能な地域と農業を守ろう

河北潟の田んぼは本来は湿地、生きものの宝庫です。河北潟の肥沃で豊かな環境にひろがる田んぼを守りましょう。



「生きものの元気米」は、田んぼを守る米づくり



畦の除草剤

STOP!

河北潟のまわりや加賀地方の田んぼは、畦に草が生えないよう管理するところが多く、除草剤の使用も少なくありません。除草剤が散布された後の畦は、畦全体の草が枯れ、黄色や茶色に変色します。

なにが問題？



ネオニコチノイド系農薬等の空中散布STOP!

河北潟のまわりでは、カメムシ防除を目的とした無人ヘリによる殺虫剤の空中散布がおこなわれています。精米した米の中にカメムシの食害を受けた斑点米や着色米が1000粒に1粒入ると、2等級米として価格が下がってしまうからです。

なにが問題？

畦の除草剤は、散布したところの植物全体を枯死させるグリホサートという強力な成分を含む除草剤が広く使用されています。デンマークなどで使用が禁止されている農薬です。**カエルに強い毒性を示すことが知られ、世界的なカエル減少の一因として問題視されています。魚への影響も指摘されています。除草剤が頻繁に散布される畦は、土がぼろぼろになります。皮膚炎や肺炎などの症例が報告され、人体への影響も懸念されています。**

ネオニコチノイド系農薬とは、ニコチンに似た成分「ニコチノイド」を主とする殺虫剤です。昆虫に対して選択的に強い神経毒性を持つとされ、人間への毒性の高い有機リン系の農薬に代わる効率的な殺虫剤として、2000年代から農業だけでなく一般家庭にまで広く普及しました。この農薬の特徴として、昆虫や動物（人間を含む）の神経を攪乱する「**神経毒性**」、水に溶けるため植物の根から葉先まで吸収される「**浸透性**」、地中に長期（一年以上）残留する場合もあるなどの「**残効性**」があります。**防除対象のカメムシなどの害虫だけでなく、ハチやトンボやクモなどの益虫を含む昆虫が数多く死にます。水に溶けることから、川や水路を通じて広がる危険があります。また、一度使われると長く留まることから、生態系や人体への影響が懸念されています。**

▶ 生きものの元気米とは？

生きものの元気米とは、**畦の除草剤不使用、ネオニコチノイド系農薬不使用（ヘリコプターによる空中散布なし）**の田んぼで穫れるお米です。生物専門家による簡易な生きもの調査もおこない、田んぼごとに生息する生きものをアピールします。

▶ 取り組み・目的

河北潟まわりの水田で、持続可能な農地・健康・安全を守るために、①除草剤（農薬）を使わず草刈機などで畦の除草をする、②ネオニコチノイド系農薬の無人ヘリによる空散をおこなわないという2つの条件での米作りが広まるよう取り組んでいます。この取り組みに参加する農家が増えるよう働きかけると同時に、消費者のみなさんからの応援を募っています。

◎上記2つの条件の米を買っていただける方、扱っていただけるお店を募集しています。田んぼの生きものを守る活動につながります。田んぼを守る元気米を、ぜひ応援ください。



七豊米

しちほうまい

炊きあがり艶やか、弾力性のある旨い米

ハッタミズが生息する田んぼ

農家に呼びかけるだけでなく、自分たちで米作りをはじめました。「生きものの元気米」に先駆けてきたのが新ブランド「七豊米」です。農薬を使わず、土・水・人・生物・米・農業・水路の健全性を求め、とことん丁寧につくられたお米です。

手植え
稲架干し
農薬不使用
低温精米

